

《令和3年度 第1回江別市介護保険事業等運営委員会説明文》

○書面会議の開催にあたって

本委員会委員の交代があったため、ご報告いたします。

江別市自治会連絡協議会から選出の 宮川 林 委員が退任となり、後任として同協議会から 谷保 勝男 様が新たに委員として委嘱されております。

1. 報告事項

(1) 令和2年度地域包括支援センター運営状況について

江別市地域包括支援センターの運営状況について

資料1-1 地域包括支援センター運営状況概要

(1) 人口の状況

- ・市全体の高齢化率は右端の合計欄のとおり、31.2%。
- ・地域包括支援センター別で最も高齢化率が高いのは大麻第一包括の32.8%、最も低いのは江別第二包括の27.8%。

(2) 職員体制

- ・地域包括支援センター全体で29.0人。
- ・大麻第一包括で、年度末に一人減となったが4月に同数に戻っている。

(3) 総合相談実績

- ・令和2年度の相談延件数は、11,627件で、前年度より924件増加。
- ・電話での相談件数の伸びが著しく、新型コロナウイルスの影響と考えられる。

(4) 活動実績

- ・各包括が地域に出向いて出前講話などを行う地域活動の合計は47回、参加者は630人。
- ・令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、地域活動が制限され、前年度と比べて実績が大幅に減少している。

資料1-2 地域包括支援センターの運営状況

1 総合相談支援業務

ア 相談者区分内訳

- ・相談者で多いのは、家族が2,907件、次いで本人が2,704件。

イ 相談内容内訳

- ・相談内容で多いのは、介護保険に関する相談が6,254件、心身の健康状態

《令和3年度 第1回江別市介護保険事業等運営委員会説明文》

に関する相談が4,568件。

2 権利擁護業務

ア 権利擁護業務対応件数

- ・虐待が42件、成年後見制度が43件など、総件数は117件。

イ 虐待事例内容

- ・内容で多いのは、身体的虐待が24件、心理的虐待が14件。
- ・地域包括支援センターにおいて月別に対応したものを延べ件数で集計。

3 地域ケア会議実施状況

- ・地域包括支援センターが主催した地域ケア会議は合計18回、検討件数は18件。
- ・市が主催した自立支援型地域ケア会議は3回、検討件数は9件。

資料1-3 介護予防教室等の実施状況

1 介護予防教室

- ・介護予防教室（シニアの元気アップ講座）の参加者数は139人で、前年度から大きく減少している。
- ・新型コロナウイルスの影響で12コース予定していた講座のうち4コースが中止となった。

2 介護予防出前講話及び地域フォーラム

- ・介護予防出前講話は9回、122人、地域の団体と一緒に地域課題の発掘を行う支え合い出前講話は2回、56人、講話に加えて参加者同士の意見交換を行う地域フォーラムは20回、313人が参加。

3 合計

- ・1介護予防教室と2介護予防出前講話等を合わせた数値を記載。

資料1-4 令和2年度指定介護予防支援業務の実施状況

介護予防支援実績

- ・予防サービスの利用に必要な介護予防支援に係る実績。

ケアマネジメントA

- ・総合事業の訪問サービスや通所サービスを利用する際に必要なケアマネジメントに係る実績。

ケアマネジメントC

- ・総合事業の短期集中サービスを利用する際に必要なケアマネジメントに係る実績。

合計

- ・令和2年度の合計件数は19,383件、令和元年度に比べて610件減少。

(2) 介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況等について

1 介護予防・生活支援サービス事業

(1) 訪問サービス

- ・総合事業は平成29年度からの段階的移行を経て平成30年度から本格実施。
- ・平成30年度からは時間区分を追加。
- ・令和2年度は45分未満11人、60分未満148人、60分以上が225人。

(2) 通所サービス

- ・平成30年度からは時間区分を追加。
- ・令和2年度は4時間未満の利用が339人、4時間以上が519人。
- ・基準緩和型通所サービスは、人員配置、面積基準等を緩和するほか、送迎時に商業施設に立ち寄り買い物支援を行う。
- ・令和2年度は、年度途中で最大4人の利用があったが、年度末の利用者は1人であった。

(3) 短期集中サービス

- ・運動器や口腔の機能向上が必要な人に、短期間集中して機能訓練を行い、生活機能の改善を図る。
- ・令和2年度では、運動器機能16人、口腔機能ゼロ人の利用であった。

2 一般介護予防事業

- ・令和2年度では、Eーリズムシニアのらくらくイス編を指導するEーリズムインストラクターの派遣を開始。
- ・令和3年度は、管理栄養士、歯科衛生士、Eーリズムインストラクター、保健師の派遣に係る費用を保健センターに移管。

3 包括的支援事業（社会保障充実分）

(1) 在宅医療・介護連携推進事業

①お薬手帳を活用した連携シート

- ・ケアマネジャーが利用者のお薬手帳に貼付し、要介護度やケアマネの氏名など介護の基礎情報を医療機関や薬局などと共有する。
- ・平成30年9月から活用開始。

《令和3年度 第1回江別市介護保険事業等運営委員会説明文》

②医療機関ガイドブック

- ・参考資料の別冊として配付のとおり。

③研修情報の一元化

- ・市が開催する研修のほか、各団体が独自に実施している研修のうち、他の職種が参加可能な研修を市のHPで公開。

(2) 認知症総合支援事業

①認知症施策の活動状況

ア認知症初期集中支援チームの運営・活用の推進について

- ・令和2年度の支援人数は1人。チーム員の助言等により解決した例もあり、アセスメントの結果、集中的な介入が必要だったのは1人という結果。

イ認知症地域支援推進員の活動の推進

- ・認知症地域支援推進員は、野幌地域包括支援センターに配置し、関係機関や地域団体などとの連携に取り組んでいる。
- ・認知症ケアパスは作成済みであるほか、市内で4か所の認知症カフェが開催されている。

ウ成年後見制度利用促進法等に基づく権利擁護の取組の推進

- ・平成29年度に設置した成年後見支援センター（社会福祉協議会に委託）の相談件数（実人数ベース）は、令和2年度は113件。

エ地域の見守りネットワークの構築

- ・江別保健所が運営する行方不明者捜索に関するSOSネットワークに市や地域包括支援センターなどが捜索協力機関として参加している。

オ認知症サポーターの養成及び認知症の人とその家族への支援に関する取組

- ・認知症サポーター養成講座の受講者数は297人、新型コロナウイルスの関係で、講座の開催数が少なかった。
- ・江別認知症の人の家族を支える会、かけはしの会による見守り支援である認知症高齢者家族やすらぎ支援事業の利用日数は152日。

②認知症安心みまもりあいネットワーク事業

アVRを活用した研修会

イ見守りのためのツールの普及支援

- ・いずれも令和元年度から開始した事業、令和2年度は、VRを活用した研修会を2回開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、1回の開催にとどまった。

ウGPS位置検索サービス

《令和3年度 第1回江別市介護保険事業等運営委員会説明文》

- ・ 令和2年度末で利用者数は8人。
- (3) 地域ケア会議推進事業及び生活支援体制整備事業
- ① 自立支援型地域ケア会議
 - ・ 令和2年度で3回、新規6ケース検討。
 - ② 生活支援コーディネーター
 - ・ 高齢者の地域での生活を支えるため、地域資源の把握、関係者間のネットワーク構築を行う。
 - ・ 市全域を担当する第1層生活支援コーディネーターと地域包括支援センターの圏域ごとに第2層生活支援コーディネーターを配置。
 - ③ 地域ケア会議と生活支援体制整備協議体の機能
 - ・ 地域包括支援センターが主催する地域ケア会議や、市が主催する自立支援型地域ケア会議など、多様な専門職が協議する会議の積み重ねから、地域に共通する課題及び地域資源の把握を行っている。
 - ・ そこから、地域づくり・資源開発、政策形成に係る機能について、生活支援体制整備協議体と連携して進める。

(3) 地域密着型サービス事業所の指定及び廃止について

令和2年7月2日から令和3年7月1日の間に指定した事業所及び廃止となった事業所については、それぞれ1件ずつでありました。

指定については地域密着型通所介護事業所である「デイホームこはる」、廃止については地域密着型通所介護事業所である「デイサービス PeakAssistance 野幌」であります。

詳細については、記載のとおりです。

また、令和2年度の地域密着型サービスの施設系事業所の入所状況について、参考資料の12ページにまとめております。

施設の空き状況等につきましては、江別市のホームページで毎月公開しており、今回の資料は、年間の状況をまとめたものであります。

(4) 令和2年度介護サービス利用実績について

資料4は、令和2年度のサービス別の利用状況と給付費をまとめたものです。計画値と実績値に30%を以上の乖離があるサービスについて評価をし、第8期江別市介護保険事業

《令和3年度 第1回江別市介護保険事業等運営委員会説明文》

計画の計画値推計の参考としています。

資料5は令和2年度の給付費を居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービスごとにまとめたものです。概ね計画通りと考えております。